

tree house project 木の子

tree house project 木の子
(代表 本多香純)

1. 団体説明

木の子は、①地域の自然を利用した子どもや大人の環境教育・学習・地域交流の創造、②学生が協力して地域に貢献する場の創造、③建築、都市計画を先行する学生の実践の場という3つを活動理念としている。また、ツリーハウスを里山のシンボルとし「地域」「里山」を盛り上げたいという想いで環境教育やイベント、ツリーハウスや遊具の制作を実施。さまざまな世代の人々が里山という空間や時間を共有することによる、繋がり創造を目指している。

現在1回生12名、2回生3名が所属している。

2. 2021年度の活動

3月	プレイハウス制作開始
6月	1回生里山案内
7月	プレイハウス完成
11月	バタフライガーデン

新型コロナウイルスの感染拡大防止のため、コロナ禍以前のような活動は限られる部分があったが、その中でもオンライン会議を行い、今後どのように活動を進めていくかを随時話し合った。その結果、1～3回生で協力してプレイハウスを完成させることができ、里山がさらに豊かな場所となった。



図1 プレイハウス制作様子
(出所) 所属学生撮影

また、11月のバタフライガーデンでは地域の人と交流をする機会があり、花の植え替えを行った。1、2回生は、学生団体のメンバー以外の人たちと活動するのはこれが初めての機会であり、非常に貴重な経験となった。このように、木の子の活動は設計などの実践だけでなく、仲間や地域の人々との関係を築くことで成り立っており、卒業後の生活にも大いに生かすことができると確信している。

3. 活動を通して学んでいること

私たちはツリーハウスや遊具などを設計、作成する建築班と小学生を対象としたイベントを企画、運営する環境教育班に分かれて活動している。

建築班は学生だけで案を出し、顧問教員の指導の下で設計、施工をしている。デザインに着目するだけでなく、目的や役割などの使用者のことを考えて設計している。これによって建築、都市計画の本質である部分を学ぶことができる。

環境教育班は里山で子どもたちや地域の人の交流の場となり、安全で楽しむことができることを目的としてイベント企画をしている。このように運営することで実践力や発想力、創造力などが得られる。それらに加えてTwitter や Instagram、YouTube での情報発信も行っており、これらによって企画力、行動力、情報収集力などのさまざまな力が身に付くと考えている。



図2 花の植え替え
(出所) 所属学生撮影

4. 今後の展望

さまざまな世代の人が、山という同じ空間を共有するひとときを過ごすことで、つながることを目指している。

【謝辞】活動にあたり、熊谷哲先生(県立大名誉教授、NPO 法人はりま里山研究所所長)、世良田ひとみさん(親子子育てメンター)および地域の方々は大変お世話になっております。心より感謝申し上げます。今後ともよろしく願いいたします。



図3 ブランコで子どもたちが遊ぶ様子
(出所) 所属学生撮影